

ひきセン 通信 2020年 第3号

新型コロナウイルス感染拡大防止に関する 当センターの業務について

この度新型コロナウイルス感染拡大防止に関して、当センターでは4月23日から面談、訪問、居場所の実施を見合わせ、その後も規模を縮小しながら制限を設けて開所してまいりました。ご相談の途中だった方、新しくご利用を検討されていた方には大変ご迷惑をおかけしました。

政府や当センターがある万代市民会館の方針を踏まえ、6月より当センターでは面談、訪問相談を通常開催いたします。また、通常居場所は6月10日から、女性の居場所は6月下旬に再開する予定です。詳細は当センターの公式ブログである「ひきセン blog」(<https://n-hikikomori.blogspot.com/>)にて順次お伝えさせていただく予定です。

相談にあたる職員はマスクを着用させていただき、換気のお願いとこれまでよりも離れた位置でお話を伺わせていただくこととなります。また相談者さまにご来所いただく際にはマスクの着用をお願いしているところです。どうぞご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

新潟市ひきこもり相談支援センター

〒950-0082 新潟市中央区東万代町 9-1

新潟市万代市民会館 5F

☎025-278-8585 ✉info@n-hikikomori.org

新潟市ひきこもり相談支援センターは長期間自宅にひきこもっている方の回復と社会参加を目指して、相談支援、訪問支援、居場所等を実施する新潟市委託の支援機関です。

ひきセンの本部バイトってなに？

ほん-ぶ【本部】

組織・団体などで、活動の中核になるところ。また、その置かれている場所。「捜査本部」

本部。それは組織の中核であり、何かを指揮する機関であり、調べてみると沖縄県国頭郡の町（本部町-もとぶちょう-）の名前だったりする。本部町はかの有名な美ら海水族館があり、ふるさと納税の返礼品はもとぶ牛やもとぶ産シークワサーワインや琉球ガラス等々であり、ご当地キャラは『ぶトモ』らしい。ちなみに私はよく顔が沖縄系と言われますが親戚がおるわけでもなく、本部町にも行ったことがありません。

さてさて話を戻してひきセン本部バイトってなに？って話でした。新潟市ひきこもり相談支援センター（以下ひきセン）は新潟市からの委託事業として運営されています。受託元（新潟市）の受託先が『ささえあいコミュニティ生活協同組合新潟』（以下ささえあい生協新潟）であり、その事務局を『本部』（以下ささえあい本部）と呼んでいます。ささえあい生協新潟は、介護事業所や就労準備支援事業、サポートステーション（就労に関

する相談機関)などの事業を行っており、その一つがひきセンというわけです。

ひきセン(中央区)とささえあい本部(西区)は場所が離れており、職員や利用者が毎日関わるということはありません。が、2か月に一度ささえあい生協新潟が発行する『会報』の発送準備をひきセンの利用者さんが担当しています。数にして1500部!こう聞くと気が遠くなりそうですが、本部の職員やひきセンの職員も一緒に作業にあたりますので心配無用です。用紙を順番通りに並べたり、封筒に入れたり、が主な業務でももちろん有償です。毎年30名以上の方が参加されます。最近では「思ったより集中できた」、「電車に乗る機会になった」、「腰が痛かった」、等々の感想がありました。ひきセンで面談を何度か重ね「働きたいけどまずその前に少し動きたい」という方に紹介させていただいております。もしご興味がある方はお気軽にお伝えくださいね。

来所が難しいけど相談希望がある方へ

ひきセンでは訪問相談を実施しています。新潟市内ご在住の方でご希望があればお気軽にお伝えください。また、ご家族や移動手段の都合により、中央区の当センターに行くことが難しい、訪問(家に他人が来られる)にも抵抗がある、という方がいらしたら、ご希望の場所(図書館、公園、その他行政施設等)でお話をお伺いすることも検討させていただきます。お気軽にご相談ください。
※新潟市ひきこもり相談支援センターは新潟市からの委託事業で実施しており、相談、訪問等にかかる費用は一切ありません

(文・齋藤)



▲会報誌(写真左)と本部外観(右)



▲本部バイトの様子。2020年4月上旬撮影。